

AALA ニュース 94 号の内容紹介

編集部

今号が 2021 年最後の号となります。ご愛読ありがとうございました。

21 日に編集会議が持たれ、紙面の改善に着手することになりました。

まず手始めに、毎号冒頭に記事の内容を紹介することになりました。

今号は 6 本の記事が掲載されます。

**1. デモクラシーナウ「バルバドス、植民地支配に別れ」**

バルバドスはカリブ海の島国の一つで、この度、大英連邦（コモンウェルス）から完全独立しました。その背景、意味について書かれたもので、出典は米国のネット放送「デモクラシー・ナウ」です。田中代表委員の訳・紹介です。

**2. 野本久夫 「古田元夫 東南アジア史 10 講」紹介**

このたび古田元夫さんが岩波新書より「東南アジア史 10 講」を出版されました。著書の内容について野本代表委員が紹介しています。

**3. StraitTimes 「民主主義サミットとシンガポール」**

ストレート・タイムスはシンガポールで発行されている一般紙です。シンガポールは今回バイデンの招集した「民主主義サミット」に招かれませんでした。外交のベテランが、これについて辛辣な批評を加えています。

**4. 中国ブリーフィング「タイムライン\_米中経済関係」**

China Briefing は民間シンクタンクが運営するネット経済紙です。ここに掲載されたタイムラインを大橋俊夫さんの文章で補強しています。

**5. PCdoB 「チリ大統領選挙と今後の課題」**

チリ大統領選の結果を受けて、今後の課題について触れたものです。ブラジル共産党の HP に掲載されたものを、山崎圭一教授が紹介しています。

**6. People's World 「チリ国民は極右系候補を拒否」**

People's World は米国共産党系の Web 紙です。左翼の勝利が、極右候補の登場への危機感にもあった、という評価を行っています。文章は尻切れトンボになっているようです。

チリ大統領選挙の本格的な総括は年明けになりそうです。